

事業報告書

第 19 期 (2020 年度)

自 2020 年 4 月 1 日

至 2021 年 3 月 31 日

京都市中京区六角通新町西入西六角町 101 番地

認定特定非営利活動法人 リボーン・京都

(法第28条第1項関係様式)

第19期（2020年度）事業報告

認定特定非営利活動法人リボン・京都
理事長 小玉 昌代

2020年の2月14日より開始したラオスのサバナケート職業訓練校セポン分校での指導は、新型コロナウイルス感染の影響で当会から現地に派遣したプロジェクトマネージャーの仲亀奈保子と洋裁専門家の川崎チイを、現地での1か月余りの滞在後に帰国させざるを得なくなりました。

セポン分校の訓練生たちの指導は、リボン・京都のラオス語訳の洋裁指導の教科書を配布し洋裁指導の動画を現地に送り、ホンカリ先生（10年前に本校で当会から洋裁訓練をうけて先生になった訓練生）が指導しました。

ラオスはコロナの感染者が少なく派遣する2人の再入国を希望して手続きをしましたが、就労ビザやMOUの問題があり、再入国できずにN連派遣の任期がきてしまいました。

毎週月曜日は京都事務局と東京の仲亀と新潟の川崎で、リモートでセポン分校やワークショップや現地の代表者のフンペンとの連絡事項の共有をしました。外務省N連担当の橋本氏より、供与する残りの機材はリストをセポン校に渡し、来年その機材類をN連に申請するよう提案されたので、そのようにする予定です。

日本の事務局では緊急事態宣言が出ているため、ボランティアと三田村店は2か月休みを取りました。事務局は通常どおり働きました。

コロナ禍が早く収まり通常の働きができますよう願っています。

I. 事業の実施に関する事項

1. 特定非営利活動に係る事業

(1) 洋裁指導事業

① 洋裁指導事業

実施期間	2020年2月14日～2021年2月13日		
実施場所	ラオス国サバナケート県 県立職業訓練校本校及びセポン分校洋裁科		
対象者	本校及びセポン分校の校長、教師、洋裁科の生徒		
従事者人数	事業従事者6名（国内3名、現地スタッフ3名）		
助成金額	7,258,613円	助成元	日本NGO連携無償資金協力
支出額	8,743,455円		
事業内容	サバナケート県立職業訓練校のセポン分校にて、初等教育卒業程度の生徒に対して、日本から洋裁専門家やミシン修理の専門家を派遣し、洋裁技術教育、ミシンの組立・メンテナンス技術訓練を行う。また、出張ワークショップによる周辺住民への洋裁技術指導により、職業訓練校に通学できない人々に対しても技術支援を行う。		
成果	<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響で、サバナケート県立職業訓練校セポン校が3月末に閉鎖されてしまい、派遣されていた駐在員2名（プロジェクトマネージャーと洋裁専門家）は急遽日本に帰国することになった。セポン分校はその後5月に授業を再開したため、駐在員を再度派遣するべく現地と連絡をとっていたが、結局派遣することができないまま2月13日に事業を終了することになった。</p> <p>駐在員を派遣できずにいた間は、ラオスの現地事務所責任者やセポン分校の渉外担当者と定期的に連絡をとって学校や生徒の様子を確認し、日本からできることを検討した。9月には当会が製作したラオス語の洋裁の教科書を印刷して生徒に配布し、現地の教員がそれを使用して生徒に指導を始めた。その指導を補完するものとして、10月には日本で洋裁専門家が指導のための動画を製作しラオスに送付した。このようにセポン分校には支援を行うことができたが、ワークショップを開催する予定だったBan Phoxay minority村は山岳地帯のため連絡がとりづらく、リモートでは支援することができなかった。</p> <p>今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、十分な指導ができないまま事業が終了してしまったので、来年度引き続き事業を継続したいと考えている。</p>		

② 環境保全活動事業（洋裁指導教材として活用）

実施期間	2021年1月～2月期間限定		
実施場所	リボン・京都 日本事務局（G&Gビル5F 久保方）		
対象者	日本全国の着物保有者		
従事者人数	国内作業従事者5名		
助成金額	-	助成元	-
支出額	133,200円（保管料）		
事業内容	不要になった古着物の寄贈を募ることで、廃棄の際に輩出されるCO2軽減に貢献し、環境に配慮する。寄贈された着物は、種類別に仕分け保管し、必要に応じて選び出し、海外事業地での洋裁指導教材として活用。		

成果	<p>会誌、ウェブサイトを通じて古着物の寄贈を呼びかけ、全国から多くの着物が届いた。また今年も受付期間を1月と2月とし、着物保管料として3,000円（段ボール1箱につき）の寄付をお願いした。</p> <p>期間内で36（94）件、年間通して47（105）件、合計587（1,278）点の着物および小物が寄贈された。（（）内は前年度の数字）</p> <p><2020年度 着物寄贈状況>（）内は前年比較の数字</p> <p style="text-align: right;">寄付者述べ人数：47名</p>																												
	<table border="1"> <tr> <td>○着物</td> <td>146点 (-177)</td> <td>○喪服</td> <td>35点 (-6)</td> </tr> <tr> <td>○夏着物(浴衣含む)</td> <td>29点 (-24)</td> <td>○喪服帯</td> <td>11点 (-10)</td> </tr> <tr> <td>○羽織</td> <td>76点 (-99)</td> <td>○男物</td> <td>18点 (-43)</td> </tr> <tr> <td>○帯</td> <td>133点 (-116)</td> <td>○子供</td> <td>3点 (-18)</td> </tr> <tr> <td>○襦袢</td> <td>27点 (-27)</td> <td>○その他(反物含む)</td> <td>69点 (-120)</td> </tr> <tr> <td>○コート</td> <td>40点 (-51)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>合計</td> <td>587点 (-691)</td> </tr> </table>	○着物	146点 (-177)	○喪服	35点 (-6)	○夏着物(浴衣含む)	29点 (-24)	○喪服帯	11点 (-10)	○羽織	76点 (-99)	○男物	18点 (-43)	○帯	133点 (-116)	○子供	3点 (-18)	○襦袢	27点 (-27)	○その他(反物含む)	69点 (-120)	○コート	40点 (-51)					合計	587点 (-691)
○着物	146点 (-177)	○喪服	35点 (-6)																										
○夏着物(浴衣含む)	29点 (-24)	○喪服帯	11点 (-10)																										
○羽織	76点 (-99)	○男物	18点 (-43)																										
○帯	133点 (-116)	○子供	3点 (-18)																										
○襦袢	27点 (-27)	○その他(反物含む)	69点 (-120)																										
○コート	40点 (-51)																												
		合計	587点 (-691)																										

(2) フェアトレード事業

① ルワンダ訓練修了生有志グループとのフェアトレード事業とフォローアップトレーニング

実施期間	2020年5月～8月		
実施場所	ルワンダ共和国キガリ市 ガチュロ職業訓練センター		
対象者	同校洋裁科修了生2名		
従事者人数	事業従事者3名 国内作業従事者23名		
助成金額	-	助成元	-
支出額	209,456円		
事業内容	当会の洋裁技術訓練修了者が、習得した技術を維持・向上させ、安定した収入を得られるよう、洋服や小物の仕立てを注文し、完成品には適正対価を払い、収入向上を図る。		
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ▪ パターンを送付し、製作依頼をする。完成品に仕立て代を払う。 ▪ 完成作品に対して評価を行う。 ▪ フォローアップ指導を行う。 		
成果	キガリ市立ガチュロ職業訓練校の修了生2名と1回フェアトレードを行った。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で資機材を送付するのが困難であったため、メールでパターンや指示書を送付して資材は現地での調達を依頼し、製作中もサンプルの写真を送付するなどメールで指導を行った。そうして完成し送付されてきた作品に対して洋裁指導責任者が最終評価を行い適正な仕立て金を支払った。評価結果は製作者にフィードバックし今後の活動に役立ててもらったことになった。		

	<p>製作したのはギテングワンピース 10 着、ノースリーブブラウス 10 着、ワイドパンツ 10 着、残布で製作したショッピングバッグ 15 個、彼らのオリジナル作品であるウエストバッグ 15 個の合計 60 点。評価は満点だったが、今後の改善点として襟ぐりの処理の仕方や星止めについてアドバイスを伝えた。</p> <p>修了生からも、ノースリーブブラウスは初めて製作したのでとてもいい経験になった、今後はフード付きのものに挑戦したいなど前向きな感想が聞かれた。また 9 月には、SNS でギテングワンピースの写真を見た現地の人から同じものを作ってほしいとの依頼があり、修了生が現地で製作したという出来事もあった。修了生とリボン・京都で、現地で新たなブランドを作るなどの可能性を探ることもできそうである。</p>
--	---

② ラオス・サバナケート県立職業訓練校とのフェアトレード事業とフォローアップトレーニング

実施期間	2020 年 11 月（教材発送）		
実施場所	ラオス国サバナケート県 県立職業訓練校洋裁科		
対象者	同校洋裁科の生徒 53 名、修了生 4 名		
従事者人数	事業従事者 3 名 国内作業従事者 23 名		
助成金額	-	助成元	-
支出額	97,272 円		
事業内容	当会の洋裁技術訓練修了者および現地教員が、習得した技術を維持・向上させ、安定した収入を得られるよう、当会より材料を送り、洋服や小物の仕立てを注文し、完成品には適正対価を払い、彼らの収入向上を図る。		
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 材料を準備・送付し、製作依頼をする。完成品に仕立て代を払う。 ▪ 完成作品に対して評価を行う。 ▪ フォローアップ指導を行う。 		
成果	<p>2007 年 外務省日本 NGO 連携無償資金協力を受け、サバナケート県立職業技術訓練校に洋裁科を設立。3 年に渡り同校で洋裁技術指導事業を実施し 2010 年 1 月に事業を終了した。その後も訓練生らが習得した洋裁技術の維持向上のため、同校とフェアトレード形式の指導を継続しており、本年度も実施した。</p> <p>今年度製作する作品は、ボランティアを対象にデザインコンテストを行い決定した。販売員であるボランティアから現場の意見を踏まえた様々な作品の応募があり、その中で最優秀作品リボン・ベスト 10 着、優秀作品ショートコート 10 着が製作依頼されることになった。その他、リバーシブルスカート 10 着、ブラウス 10 着、ワンピース+ボレロ 10 着、リバーシブル・コート 10 着の合計 60 点の製作を依頼した。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響で郵便局から資機材の送付ができなかったためヤマト運輸で送付したところ、シンガポールの空港で 2 か月間保留になり、1 月末にようやくラオスに届いた。そのため予定していたようには製作が進んでいないが京都在住のラオス人、内藤ケンペット氏に通訳・翻訳を依頼しラオス語を使って現地と連絡をとり速やかに製作、納品できるよう調整している。2019 年度に依頼した作品の中には今だ納品されていないものがあるので合わせて納品を急ぐよう努める。</p>		

③ 東日本大震災被災者とのフェアトレード事業

実施期間	2020年10月		
実施場所	宮城県仙台市		
対象者	東日本大震災の影響で京都に避難していた（が、その後帰郷した）被災者1名		
従事者人数	事業従事者3名		
助成金額	-	助成元	-
支出額	38,692円		
事業内容	当会の洋裁技術訓練修了者が、習得した技術を維持・向上させ、安定した収入を得られるよう、洋服や小物の仕立てを注文し、完成品には適正対価を払い、彼女らの収入向上を図る。		
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> 材料を準備・送付し、製作依頼する。完成品に仕立て代を払う。 		
成果	2013年～2015年まで東日本大震災の影響で京都に避難していた被災者を対象とした洋裁ワークショップを実施したが、その参加者で現在は東北地方に帰郷している方1名に仕立てを依頼するフェアトレード形式の支援活動を行っている。2019年度に作成されたブラウス2着、ライトコート2着は10月にフランス、パリに送付され現地で販売されている。10月に製作を依頼したのはラオスのフェアトレードで発注する作品のサンプルであるショートコート1点。10日程度で製作され、評価に見合った仕立て金が支払われた。		

④ バザー事業

実施期間	通年 ※下記参照		
実施場所	※下記参照		
対象者	当会支援者および一般消費者		
従事者人数	国内作業従事者26名		
助成金額	-	助成元	-
収入額	1,396,350円		
事業内容	海外現地の洋裁訓練生や訓練修了生が製作した洋服や小物等をチャリティ展示即売会、バザー出店、ネット販売などの形式で販売し、市場で技術習得の成果を問う。収益は訓練生の奨励金など活動資金に充当する。購買層や売れ筋商品、お客様の声などを参考にした商品開発を心掛け、体型をカバーしたり着心地が楽な緩やかなシルエットの商品を、洋裁責任者の中島茂代を中心に、ファッション雑誌や他ブランドの商品を参考にしながら考案した。		

成果	<p>今年度の販売事業は新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けた。政府の緊急事態宣言を受け3月から5月までの3カ月間、および8月、1月、2月の合計6カ月間三田村店を休業せざるを得なかった。また開店していた6カ月間も来店するお客様の数が減少し売り上げを伸ばすことができなかった。そのような中で祇園祭りセール、クリスマスセールを実施したものの、共に前年度より売上が減少した。</p> <p>三田村店以外の販売の場も新型コロナウイルス感染拡大の影響で2件（るてん商店街、ポルタ）しか出店することができなかった。しかし、京都駅前地下街ポルタのポップアップストアに出展した11月は新型コロナウイルスの感染も落ち着いており、昨年度並みの売り上げを得ることができた。また年間を通して事務所やオンラインショップでマスクの製作、販売を続けなんとか不足分を補填した。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響は来年度も続くと思われるので、引き続き対策を検討していくことが必要である。対面での販売が難しいため、今年度は閉鎖していたオンラインショップを再開し対処したが、今後はマスクのみでなくリボンウェアや小物も売れるように工夫していく必要がある。</p> <p>売上総額：1,396,350 円（主な内訳は以下の通り）</p>
-----------	--

<主な売上内訳>

日程	チャリティバザー		バザー以外	
6月	るてん商店街	3,000 円	三田村店(通期)	374,000 円
11月	京都駅前地下街 ポルタ	339,300 円	三田村店(祇園祭りセール)	235,050 円
			三田村店(クリスマスセール)	75,300 円
			瓢箪(通期)	15,300 円
			由凜(通期)	10,500 円
			ウェブ販売(通期)	61,200 円
			その他(通期)	282,700 円
				1,396,350 円

(3) 啓発及び広報事業

① 人材育成事業

実施期間	通年		
実施場所	リボン・京都 日本事務局		
対象者	1名		
従事者人数	事業従事者3名(国内)		
助成金額	-	助成元	-
支出額	7,660 円		
事業内容	2020年10月から11月に新しく京都芸術大学舞台芸術学科3年川端千夏をインターンとして採用した。		
成果	10月にはまずリボン・京都の全体像を把握してもらうために、リボン・京都の運営体制と各事業について説明した上で、三田村店、着物の保管場所、北区の縫製工房などを訪問して現場を体験してもらった。		

	<p>11月に入ってからには京都駅前地下街ポルタ出店にかかる広報業務を担当してもらった。大学の友人と企画して作品の写真撮影を行い、それを使って案内葉書を作成した。販売は苦手のようなだったが、実際にポルタの販売にも立ってもらった。</p> <p>3月までの予定だったが、学業や就職活動のため2月で活動を中止することになった。</p>
--	---

② 広報支援事業

実施期間	2020年4月～2021年3月		
実施場所	リボン・京都 日本事務局他		
対象者	当会支援者および一般市民		
従事者人数	事業担当者2名		
助成金額	-	助成元	-
支出額	-		
事業内容	<p>今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で人が集まるイベントなどの開催が困難だったため、これまであまり使用していなかったホームページやFacebookを積極的に利用して広報活動を行った。例えばセールのお知らせだけでなくセールに出展する作品を紹介したり、フェアトレードの取引先であるルワンダや製作者の紹介を行った。当会Facebookの「いいね!」は583名から611名とわずかながらの増加だが、今年度はInstagramにも力をいれたため、Instagramのフォロワー数も伸びている。(2021年3月4日現在)</p> <p>今年度から活動を始めたボランティアでSNSに詳しい2名が、SNSを使った広報業務をしたいと申し出てくれた。1名は「着物の生地」について、もう1名は着物の寄附の受付など、事務所の日々の活動をそれぞれSNSで紹介したいと言ってくれている。ボランティアなのであまり時間をかけることはできないが、継続してSNS上の情報を更新していきたいと考えている。</p>		

③ 啓発事業

実施期間	2020年4月～2021年3月		
実施場所	リボン・京都 日本事務局他		
対象者	当会支援者および一般市民		
従事者人数	事業担当者1名		
助成金額	-	助成元	-
支出額	-		
事業内容	<p>今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で人が集まるイベントの多くが中止されたため、例年のように啓発活動を行うことが困難だったが、ボランティアを対象にしたデザインコンテストやインターネットを活用したクラウドファンディングなど、コロナ禍でも可能な活動を模索して実施した。</p> <p>6月に行った当会のボランティアを対象としたデザインコンテストでは、ラオスに発注する秋冬物のデザインを募集し、8名から20点の応募があった。今後は、一般や学生など団体外を対象にしたコンテストの可能性も模索できるかもしれない。</p>		

	<p>また全国のフェアトレードショップが集まって実施した「フェアトレード未来チケット」というクラウドファンディングでは、参加店がSNSを使ったさまざまな広報活動を行い、Instagramには三田村店を紹介する記事もあがった。これにより、これまでリボン・京都がアクセスできなかった人々にもリボン・京都の情報が届く機会となった。</p> <p>また12月6日（日）には「市縁堂 2020 オンライン」に参加し、市民活動に興味を持つ参加者に当会の紹介を行った。</p>
--	---

<主な活動一覧>

日程	内容	主催
6/24	同志社女子大学学芸学部 (1年生)の学生3名が訪問	
6/16 ～ 7/21	ラオスフェアトレード 2020 秋冬物デザインコンテスト	認定特定非営利法人リボン・京都
6/29 ～ 8/16	クラウドファンディング フェアトレード未来チケット	フェアトレード未来チケット実行委員会
10/17	駐日ルワンダ共和国大使夫妻 ご来訪	有限会社タイムズクラブ糸井優子氏
12/6	市縁堂 2020 オンライン	京都市市民活動総合センター

2. その他の事業（三田村店での販売額を含む）

	2018年度	2019年度	2020年度
仕入商品売上	202,600円	262,770円	87,900円
お仕立て	55,000円	45,000円	0円
合計	257,600円	307,770円	87,900円

II. 会務報告

1. 会員状況（2021年3月31日現在）

	2018年度	2019年度	2020年度
正会員	48名	47名	※44名
賛助会員	72名	61名	46名
ボランティア会員	10名	13名	14名

※44名の内10名は、2021年5月より正会員を退いてボランティア会員となる。

2. 役員状況（2021年3月31日現在）

	氏名	常勤／ 非常勤	現職・所属	任期
理事長	小玉昌代	常勤	(特活)リボン・京都 理事長 (社)日本国際民間協力会 理事	2020年6月1日～2022年5月31日
理事	中島茂代	常勤	(特活)リボン・京都 洋裁指導責任者	2020年6月1日～2022年5月31日
理事	小野了代	非常勤	(社)日本国際民間協力会 理事長	2020年6月1日～2022年5月31日
理事	白井幸則	非常勤	エールコーポレーション株式会社 代表取締役	2020年6月1日～2022年5月31日
理事	宇野ひと美	非常勤		2020年7月23日～2022年5月31日
監事	山元直貴	非常勤	公認会計士	2020年6月1日～2022年5月31日

3. 職員状況（2021年3月31日現在）

理事長以外に以下の職員がおります。

	有給専従職員	有給非専従職員 (インターン含む)	無給専従職員
国内	2名	0名	0名
海外	3名	0名	0名

海外有給専従職員3名のうち、1名はラオス現地職員

4. 総会および理事会

<総会>

2020年度 通常総会

- 日時： 2020年6月9日（火）
- 場所： 認定特定非営利活動法人リボン・京都 会議室
- 出席者： 42名（内29名は委任状出席）
- 審議事項： ① 2019年度 事業報告・会務報告 承認の件
② 2019年度 決算書類 承認の件
③ 今年度の活動予定

<理事会>

2020年度 第1回理事会

- 日時： 2020年6月2日（火）
- 場所： 認定特定非営利活動法人リボン・京都 日本事務局
- 出席者： 理事5名
監事1名
- 審議事項： ① 2019年度 事業報告・会務報告 承認の件
② 2019年度 決算書類 承認の件
③ 2020年度 通常総会開催 承認の件
- 報告事項： 今年度の活動予定

2020年度臨時理事会

- 日時： 2020年9月28日（月）
- 場所： 認定特定非営利活動法人リボン・京都 日本事務局
- 出席者： 理事4名、監事1名
- 審議事項： 団体の運営の継続について
- 報告事項： 現在の財政状況、運営状況について

2020年度 第2回理事会

- 日時： 2021年3月16日（火）
- 場所： 認定特定非営利活動法人リボン・京都 日本事務局
- 出席者： 理事5名
監事1名
委任状出席1名
- 審議事項： ① 2021年度 事業計画
② 2021年度 予算案
- 報告事項： 2020年度事業状況と決算見込み

5. 会誌発行

「News! 甦 vol. 35」 発行：2020年7月7日

- 内容：
- 新型コロナウイルス感染症で感じたこと（小玉理事長）
 - 洋裁を続ける喜び（洋裁専門家中島茂代先生）
 - ラオス事業に向けての抱負（プロジェクトマネージャー仲亀奈保子）
 - ラオスセボン分校での職業訓練（始まったばかりの洋裁指導）（洋裁専門家川崎チイ先生）
 - 東淀川高校で出前授業を行いました
 - リボン・京都でのボランティア11年目をむかえる有本さんにインタビューしました
 - サマーチャリティーセールのご案内
 - チャリティーバザーの売上ご報告（2019年12月～2020年5月）
 - 第18期（2019年度）活動計算書

「News! 甦 vol. 36」 発行：2020年12月7日

- 内容：
- 緊急支援のお願いです!!（小玉理事長）
 - フェアトレード事業で思うこと（洋裁専門家中島茂代先生）
 - ラオスプロジェクトの現状について（プロジェクトマネージャー仲亀奈保子）
 - ボストン便り（ブラウンケイコさん）
 - パリ便り（長坂美由紀さん）
 - チャリティーバザーの売上ご報告（2020年6月～2020年11月）
 - 三田村店クリスマスセールのお知らせ
 - 着物のご寄贈を受付開始します！

以上